



学生の皆さん、「保健室」の場所が、大学のどこにあるか知っていますか？
大学4年間で1度も利用せずに卒業するひともいるくらいですから、知らない学生がたくさんいると思いますので、あらためてご紹介します。
大学の本館1階研究棟側に小さく存在します。わかりにくいですが、ゆつくりさがしてもらえばわかります。



1. 「保健室」で判断します

「保健室」の開室日時は、下記のとおりです。

月-金曜日(9:00-18:00)

土曜日(9:00-17:00)

日祝日休みです。(夏休、冬休期間は大学閉館日以外開室)

病気や怪我の応急処置、救急(119)要請の有無、病院受診(救急病院か一般病院かクリニック)の判断や病院紹介、何科受診したらいいのか、かかりつけ医の有無などにより、本人の了解の上、判断いたします。気軽にご相談ください。

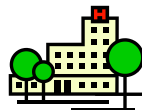


2. チェックできます

身長・体重・体脂肪・血圧・視力等が、いつでもチェックできます。

1年に1度の健康診断では物足りない人や、健康の為に体重を減らしている人、クラブ(ボクシング、ウエイト、空手、柔道部)で増減量の必要な人などが利用しています。最近では健康管理に役立つアプリを利用し、記録していくことで達成感を味わっている人もいます。保健室でチェックし、個々の体調、健康管理にお役立てください。

3. 病院、薬局ではありません



最近、だいぶ少なくなりましたが、保健室に来て症状も言わずいきなり、「シブくないの?」「風邪薬ちょうだい!」「痛み止めちょうだい」「咳止めないの?」「鼻水止ほしい」「マスクください」「冷ピタちょうだい」等々。

これらの窓口は、本来病院または薬局ですが、ご理解していただけない人がたくさんいます。保健室では、全て「ありません」なのですが、もちろんそれでは医療従事者として失格です。まず、「いつ、どこで、どうしましたか?」と確認、判断してから、必要な処置をします。そして

必要な場合は、医療従事者としての判断をしますが、幸いなことに、ほとんどの人が薬を服用しなくてもいいものばかりです。以前にもお伝えしましたが、副作用のない薬はありません。使わずに済むなら出来る限り使用を控えたいのです。保健室の代表的な対応例を記載します。



例) 頭痛がひどくて、鎮痛薬がほしいと保健室にきました。

まずは、いつから、どんな痛み、頭のどの部分、全身状態、持病の有無、頭痛時服用したことのある薬の有無、発熱、血圧、脈拍、呼吸をチェックします。その上で、判断し、最良な医療提供をいたします。

一番多い例は、頭痛症状のみ、頭痛で病院受診歴無、以前から、市販薬(鎮痛剤)を購入し、痛い時だけ服用している、今、鎮痛剤を携帯していないから、1回分だけ欲しいというものです。

⇒いつから、頭痛薬を服用するようになったのか、頭痛のおこる頻度、いつどういう場面で頭痛がおきやすいのか、市販薬(鎮痛剤)でおさまるのか、市販薬の名前、市販薬の効用等問診します。念のため、血圧、脈、体温測定し、必要であれば、脳外科受診をすすめてます。

「頭痛」の種類によっては、緊急に治療しないと命にかかわることも多々あります。鎮痛剤を服用することで頭痛は多少治まったとしても、頭痛の原因まで治まったとは、限りません。薬の効用が切れてきたらまた頭痛がはじまります。安易に市販薬(鎮痛剤)に頼らず、なぜ頭痛がするのかを大学の保健室や、医療機関で相談してください。あなたに合った頭痛の治療があるはずです。個々の正しい頭痛の治療を願います。



4. 医療給付制度について

病院受診を勧めた時によく、「お金がないから病院に行けない！」という学生さんがいます。だから保健室で薬やシップが欲しいと…。無いと言われれば、病院へ行くより安いから薬局で薬を買う、ということを言われます。

入学時オリエンテーションやキャンパスガイドでもお伝えしていますが、大学には学生総合互助部会があり、**学生の医療費負担軽減のための医療給付制度**というものがあります。学費納入時に学友会関係費を納入している方のみ対象ですが、歯科(口腔外科)以外の保険診療(風邪や怪我、持病の受診を含み、現行 39,000 円/月、200,000 円/年を上限)については期日までに申請すれば後日給付されます。一旦支払いをしないといけません、専門医の正しい治療を受け、必要であれば個人に見合った薬などの処方を受けることができますので、保健室では案内し受診をお勧めしています。(入院見舞金や弔慰金などの給付制度もあります)

但し対象外となるものもあるので、手続きなど詳しくはキャンパスガイドか学生生活課でご確認ください。